

筑波大学新聞

第374号

編集責任
筑波大学新聞
編集委員会

TEL・FAX 029(853)6699
E-mail
shinbun@un.tsukuba.ac.jp
月刊

発行所
筑波大学
茨城県つくば市
天王台1-1-1

注目記事

- 国際交流フェスにぎわう
- 芸術祭 対面とオンラインで開催
- 剣道 全日本学生優勝大会制す
- 「食と酒東北祭り」に8000人
- 学内飲食店 経営状況依然厳しく

- 特集 6・7 舞台裏に迫る 初めての尽くしの雙峰祭
- ミニ特集 3 知的障害者のスポーツの祭典 スペシャルオリンピックス

雙峰祭3年ぶりの対面 100企画が盛り上げる



津軽三味線倶楽部無絃塾など「UNITED ステージ」では15の団体が演奏やダンスなどを披露し、盛り上げた(11月5日、石の広場で)

第48回筑波大学学園祭(雙峰祭)が11月5、6日、3年ぶりに対面開催された。コロナ禍で2020年は中止、21年はオンライン開催となっていた。今年のテーマは「Navigate The Festival」。雙峰祭を盛り上げることで、大学全体を活性化しようという思いを込めた。各教室での展示や調理企画、ステージ発表など約100企画が並び、2日間で延べ約7000人が訪れた。

(及川翔二人文科学3年、写真も。5、6、7面に関連記事)

会場となったのは第一、第二、第三、体育エリアの教室と石の広場に設置された「UNITEDステージ」(上限500人)、1A棟食堂に設置された「1Aステージ」(上限170人)。

各教室では、作品展示や物販、食事の調理と提供などが行われた。感染対策のため、手指の消毒や換気も徹底した。飲食企画では、教室内に食卓の席を

設け、食べ歩きをしないように呼び掛けた。石の広場と1A棟のステージでは、2日間で計27団体が出演した。特設ステージでは、学生向けや一般、高校生向けが追加され、最終的に1日7000枚になったが、やはり予約がいっぱいになった。ステージ観覧用のチケットは、企画ごとに無料販売されたが、こちらもほぼ完売に達した。

オンラインの特設サイトでは、二つのステージをライブ配信し、応援部WIN Sなど4団体が大会館で事前収録したパフォーマンスが紹介された。特設サイトから、対面企画を実施した学生団体の活動紹介動画などを見ることができた。

対面会場への入場やステージの観覧は電子チケット販売サイト「Pass Market」を使った。前予約制(無料)となった。来場者は、筑波キャンパス内6カ所に設置された受付で検温と消毒をした。更に、配布されたリストバンドを付けて入場した。入場チケットの予約が始まったのは10月11日。11月5日、6日のいずれも1日5000枚だったが、予約開始翌日に予定枚数に達した。その後、在学生向けや一般、高校生向けが追加され、最終的に1日7000枚になったが、やはり予約がいっぱいになった。ステージ観覧用のチケットは、企画ごとに無料販売されたが、こちらもほぼ完売に達した。

学園祭実行委員長の青木颯汰さん(工芸2年)は「感染対策と来場者・企画者に楽しんでもらうこと、両立が大変だった。前例がない試みだったが、多くの人でにぎわう会場を見て感激した。開催できて本当に良かった」と話した。

ウクライナからの避難学生 受け入れ期間1年延長

受け入れ期間1年延長

筑波大はロシアの軍事侵襲で学びの場を失ったウクライナ学生の受け入れ期間を来年度末まで1年間延長する。経済支援や住居支援も同様に継続する方針だ。ロシアの軍事侵襲が続いていることや学生への意向調査を踏まえて決めた。

(車谷郁美II社会学類3年)

筑波大は10月末〜11月にかけ、ウクライナからウクライナ人学生を受け入れたいという学生を募集している。11月末までに来日した28人中27人が「受け入れを継続してほしい」と回答したという。

現在では学生全員と面談

だが、ウクライナ政府からの出国許可が下りない▽経済的な問題や家庭の事情で留学を諦めた▽より近隣の国への留学を決めた▽などの理由から、第1期及び第2期で受け入れが決定した。12月2日、12月9日現在で、特別聴講生20人(国費外国人留学生1人を含む)、研究生8人が来日している。来年度1月までに特別聴講生1人、研究生3人が来日する予定だ。

来日した避難学生の所属先

課程	所属組織	人数
学類・専門学群(特別聴講生)	人文学類	3
	社会学類	4
	国際総合学類	3
	生物学類	2
	生物資源学類	1
	情報科学類	1
	知識情報・図書館学類	1
	医学類	1
	芸術専門学群	3
	計	19
大学院(研究生)	人文社会ビジネス科学学術院	2
	人文社会科学学術院	1
	理工情報生命学術院	1
	数理物質科学学術院	1
	人間総合科学学術院	5
計	8	
合計	27	

(国費外国人留学生)
学類 日本語・日本文化研修留学生(日本語・日本文化学類) 1
総計 28
(12月9日現在。取材を基に作成)

OBの三笥、谷口が躍動 サッカー場でPVも

サッカーのワールドカップ(W杯)カタール大会(11月20日〜12月18日)で日本は、2大会連続4度目の決勝トーナメント進出を果たした。目標のベスト8はならなかったものの、1次リーグでW杯優勝経験国のドイツとスペインを初めて破り、世界に大きな印象を残した。日本チームで存在感を示したのが、筑波大学蹴球部出身のミッドフィールダー(MF)三笥薫選手(令和元年度体育専門学群卒)とディフェン



サッカー場でW杯を観戦する参加者 = WorldFut TSUKUBA 提供

PVの責任者を務めた同団体の山内健太朗さん(心理2年)は「試合前に小学生がさまざまな企画を楽しんでくれ、地域とのつながりを感じることができた」と話した。(細井真生II人文学類3年)

サッカーのワールドカップ(W杯)カタール大会(11月20日〜12月18日)で日本は、2大会連続4度目の決勝トーナメント進出を果たした。目標のベスト8はならなかったものの、1次リーグでW杯優勝経験国のドイツとスペインを初めて破り、世界に大きな印象を残した。日本チームで存在感を示したのが、筑波大学蹴球部出身のミッドフィールダー(MF)三笥薫選手(令和元年度体育専門学群卒)とディフェン

サッカーのワールドカップ(W杯)カタール大会(11月20日〜12月18日)で日本は、2大会連続4度目の決勝トーナメント進出を果たした。目標のベスト8はならなかったものの、1次リーグでW杯優勝経験国のドイツとスペインを初めて破り、世界に大きな印象を残した。日本チームで存在感を示したのが、筑波大学蹴球部出身のミッドフィールダー(MF)三笥薫選手(令和元年度体育専門学群卒)とディフェン

サッカーのワールドカップ(W杯)カタール大会(11月20日〜12月18日)で日本は、2大会連続4度目の決勝トーナメント進出を果たした。目標のベスト8はならなかったものの、1次リーグでW杯優勝経験国のドイツとスペインを初めて破り、世界に大きな印象を残した。日本チームで存在感を示したのが、筑波大学蹴球部出身のミッドフィールダー(MF)三笥薫選手(令和元年度体育専門学群卒)とディフェン

サッカーのワールドカップ(W杯)カタール大会(11月20日〜12月18日)で日本は、2大会連続4度目の決勝トーナメント進出を果たした。目標のベスト8はならなかったものの、1次リーグでW杯優勝経験国のドイツとスペインを初めて破り、世界に大きな印象を残した。日本チームで存在感を示したのが、筑波大学蹴球部出身のミッドフィールダー(MF)三笥薫選手(令和元年度体育専門学群卒)とディフェン

サッカーのワールドカップ(W杯)カタール大会(11月20日〜12月18日)で日本は、2大会連続4度目の決勝トーナメント進出を果たした。目標のベスト8はならなかったものの、1次リーグでW杯優勝経験国のドイツとスペインを初めて破り、世界に大きな印象を残した。日本チームで存在感を示したのが、筑波大学蹴球部出身のミッドフィールダー(MF)三笥薫選手(令和元年度体育専門学群卒)とディフェン

サッカーのワールドカップ(W杯)カタール大会(11月20日〜12月18日)で日本は、2大会連続4度目の決勝トーナメント進出を果たした。目標のベスト8はならなかったものの、1次リーグでW杯優勝経験国のドイツとスペインを初めて破り、世界に大きな印象を残した。日本チームで存在感を示したのが、筑波大学蹴球部出身のミッドフィールダー(MF)三笥薫選手(令和元年度体育専門学群卒)とディフェン

サッカーのワールドカップ(W杯)カタール大会(11月20日〜12月18日)で日本は、2大会連続4度目の決勝トーナメント進出を果たした。目標のベスト8はならなかったものの、1次リーグでW杯優勝経験国のドイツとスペインを初めて破り、世界に大きな印象を残した。日本チームで存在感を示したのが、筑波大学蹴球部出身のミッドフィールダー(MF)三笥薫選手(令和元年度体育専門学群卒)とディフェン

サッカーのワールドカップ(W杯)カタール大会(11月20日〜12月18日)で日本は、2大会連続4度目の決勝トーナメント進出を果たした。目標のベスト8はならなかったものの、1次リーグでW杯優勝経験国のドイツとスペインを初めて破り、世界に大きな印象を残した。日本チームで存在感を示したのが、筑波大学蹴球部出身のミッドフィールダー(MF)三笥薫選手(令和元年度体育専門学群卒)とディフェン

サッカーのワールドカップ(W杯)カタール大会(11月20日〜12月18日)で日本は、2大会連続4度目の決勝トーナメント進出を果たした。目標のベスト8はならなかったものの、1次リーグでW杯優勝経験国のドイツとスペインを初めて破り、世界に大きな印象を残した。日本チームで存在感を示したのが、筑波大学蹴球部出身のミッドフィールダー(MF)三笥薫選手(令和元年度体育専門学群卒)とディフェン

サッカーのワールドカップ(W杯)カタール大会(11月20日〜12月18日)で日本は、2大会連続4度目の決勝トーナメント進出を果たした。目標のベスト8はならなかったものの、1次リーグでW杯優勝経験国のドイツとスペインを初めて破り、世界に大きな印象を残した。日本チームで存在感を示したのが、筑波大学蹴球部出身のミッドフィールダー(MF)三笥薫選手(令和元年度体育専門学群卒)とディフェン

サッカーのワールドカップ(W杯)カタール大会(11月20日〜12月18日)で日本は、2大会連続4度目の決勝トーナメント進出を果たした。目標のベスト8はならなかったものの、1次リーグでW杯優勝経験国のドイツとスペインを初めて破り、世界に大きな印象を残した。日本チームで存在感を示したのが、筑波大学蹴球部出身のミッドフィールダー(MF)三笥薫選手(令和元年度体育専門学群卒)とディフェン

サッカーのワールドカップ(W杯)カタール大会(11月20日〜12月18日)で日本は、2大会連続4度目の決勝トーナメント進出を果たした。目標のベスト8はならなかったものの、1次リーグでW杯優勝経験国のドイツとスペインを初めて破り、世界に大きな印象を残した。日本チームで存在感を示したのが、筑波大学蹴球部出身のミッドフィールダー(MF)三笥薫選手(令和元年度体育専門学群卒)とディフェン

サッカーのワールドカップ(W杯)カタール大会(11月20日〜12月18日)で日本は、2大会連続4度目の決勝トーナメント進出を果たした。目標のベスト8はならなかったものの、1次リーグでW杯優勝経験国のドイツとスペインを初めて破り、世界に大きな印象を残した。日本チームで存在感を示したのが、筑波大学蹴球部出身のミッドフィールダー(MF)三笥薫選手(令和元年度体育専門学群卒)とディフェン

サッカーのワールドカップ(W杯)カタール大会(11月20日〜12月18日)で日本は、2大会連続4度目の決勝トーナメント進出を果たした。目標のベスト8はならなかったものの、1次リーグでW杯優勝経験国のドイツとスペインを初めて破り、世界に大きな印象を残した。日本チームで存在感を示したのが、筑波大学蹴球部出身のミッドフィールダー(MF)三笥薫選手(令和元年度体育専門学群卒)とディフェン

サッカーのワールドカップ(W杯)カタール大会(11月20日〜12月18日)で日本は、2大会連続4度目の決勝トーナメント進出を果たした。目標のベスト8はならなかったものの、1次リーグでW杯優勝経験国のドイツとスペインを初めて破り、世界に大きな印象を残した。日本チームで存在感を示したのが、筑波大学蹴球部出身のミッドフィールダー(MF)三笥薫選手(令和元年度体育専門学群卒)とディフェン

サッカーのワールドカップ(W杯)カタール大会(11月20日〜12月18日)で日本は、2大会連続4度目の決勝トーナメント進出を果たした。目標のベスト8はならなかったものの、1次リーグでW杯優勝経験国のドイツとスペインを初めて破り、世界に大きな印象を残した。日本チームで存在感を示したのが、筑波大学蹴球部出身のミッドフィールダー(MF)三笥薫選手(令和元年度体育専門学群卒)とディフェン

サッカーのワールドカップ(W杯)カタール大会(11月20日〜12月18日)で日本は、2大会連続4度目の決勝トーナメント進出を果たした。目標のベスト8はならなかったものの、1次リーグでW杯優勝経験国のドイツとスペインを初めて破り、世界に大きな印象を残した。日本チームで存在感を示したのが、筑波大学蹴球部出身のミッドフィールダー(MF)三笥薫選手(令和元年度体育専門学群卒)とディフェン

サッカーのワールドカップ(W杯)カタール大会(11月20日〜12月18日)で日本は、2大会連続4度目の決勝トーナメント進出を果たした。目標のベスト8はならなかったものの、1次リーグでW杯優勝経験国のドイツとスペインを初めて破り、世界に大きな印象を残した。日本チームで存在感を示したのが、筑波大学蹴球部出身のミッドフィールダー(MF)三笥薫選手(令和元年度体育専門学群卒)とディフェン

サッカーのワールドカップ(W杯)カタール大会(11月20日〜12月18日)で日本は、2大会連続4度目の決勝トーナメント進出を果たした。目標のベスト8はならなかったものの、1次リーグでW杯優勝経験国のドイツとスペインを初めて破り、世界に大きな印象を残した。日本チームで存在感を示したのが、筑波大学蹴球部出身のミッドフィールダー(MF)三笥薫選手(令和元年度体育専門学群卒)とディフェン

サッカーのワールドカップ(W杯)カタール大会(11月20日〜12月18日)で日本は、2大会連続4度目の決勝トーナメント進出を果たした。目標のベスト8はならなかったものの、1次リーグでW杯優勝経験国のドイツとスペインを初めて破り、世界に大きな印象を残した。日本チームで存在感を示したのが、筑波大学蹴球部出身のミッドフィールダー(MF)三笥薫選手(令和元年度体育専門学群卒)とディフェン

サッカーのワールドカップ(W杯)カタール大会(11月20日〜12月18日)で日本は、2大会連続4度目の決勝トーナメント進出を果たした。目標のベスト8はならなかったものの、1次リーグでW杯優勝経験国のドイツとスペインを初めて破り、世界に大きな印象を残した。日本チームで存在感を示したのが、筑波大学蹴球部出身のミッドフィールダー(MF)三笥薫選手(令和元年度体育専門学群卒)とディフェン

サッカーのワールドカップ(W杯)カタール大会(11月20日〜12月18日)で日本は、2大会連続4度目の決勝トーナメント進出を果たした。目標のベスト8はならなかったものの、1次リーグでW杯優勝経験国のドイツとスペインを初めて破り、世界に大きな印象を残した。日本チームで存在感を示したのが、筑波大学蹴球部出身のミッドフィールダー(MF)三笥薫選手(令和元年度体育専門学群卒)とディフェン

国際交流フェスにぎわう

留学生ら母国の文化紹介 大会館で

異文化交流を目的としたイベント「国際交流フェス THE IMAGINE」が12月1日、大会館で開かれた。ウクライナを含む14の国や地域の文化を紹介するブースが設けられ、学生団体によるパフォーマンスや海外文化紹介も行われた。出展者も含め、約370人が参加した。

(車谷郁実、加藤緑、生物学科1年、12面に関連写真)

イベントでは、筑波大の国際交流サークル「CAS」が、パフォーマンス発表の司会進行など運営を手伝った。

各ブースでは、各国の伝統的な遊びの紹介やイスラム教徒の女性が髪を覆う布「ヒジャブ」を着用できるコーナーなどが設けられた。サリヤや漢服など母国の伝統的な衣装を着た留学生も多かった。彼らの母国を訪れてみたくなったと話した。ウクライナのブースでは、キリスト教の復活祭を祝うイースターエッグ作りが紹介された。卵の殻に鮮やかな幾何学模様や動植物が描かれた伝統工芸品で、他にも幸せを呼ぶとされる「モタンカ人形」などが展示された。



絵を通して戦争下にあるウクライナの現状を伝えたザウゴロニアさん(右)(12月1日、大会館で) = 車谷郁実撮影

ブースの背面には、ウクライナ学生が描いた4枚の絵も飾られた。このうち2枚は芸術専門学群のハンナ・ザウゴロニアさんが描いた。ぬいぐるみを持ち、涙を流して立ちつくす男の子を四つの手が囲む絵では、戦争下にあるウクライナの現状を伝える

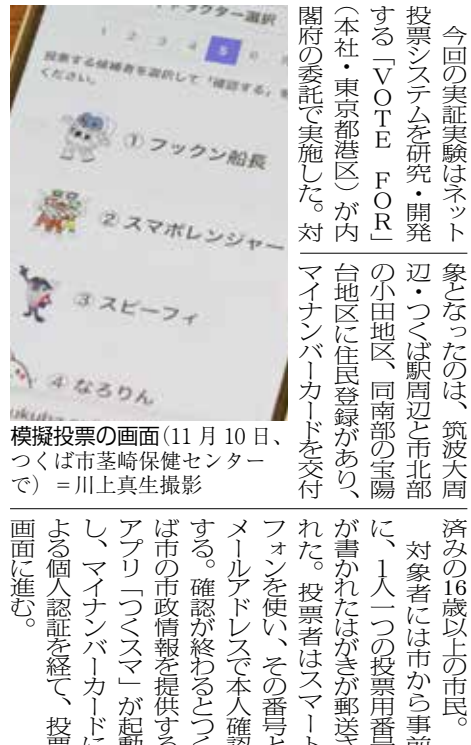
たかったという。手の外側には「お父さんはいつ帰ってくるの」「軍人は僕たちを守ってくれるの」と書かれていた。多くはザウゴロニアさんが現地ですらった言葉だ。子供の夢を大人の手に守るという意味を込め、男の子を囲む手は家の形にした。ザウゴロニアさんは「子供たちについていられない。戦争が繰り返されたいようにこの思いを込めた」と話した。

イベントでは留学生制度の紹介ブースも設けられ、相談に訪れた学生もいた。同室の担当者は「予想以上に多くの学生が参加してくれた。学生たちの楽しそうな表情が見られてうれしかった」と話した。

ネット模擬投票 1506人参加

市長・市議選へ導入目指す

【4面に記者の声】つくば市で11月8〜14日、市民がマイナンバーカードとスマートフォンを使い、架空の候補者を選ぶインターネット模擬住民投票が行われた。同市は今年3月、先端技術を活用して住みよいまちづくりを目指す政府の「スーパーシティ型国家戦略特区」に選ばれた。2024年の市長選・市議選へのネット投票導入を目指しており、その実証実験の一環だ。今回は市民のうち16歳以上の1万4000人が対象となり、1506人が実際に投票した。(加藤緑、及川千翔)



模擬投票の画面(11月10日、つくば市健康センター) = 川上真生撮影

今回の実証実験はネット投票システムを研究・開発する「VOTE FOR」(本社・東京都港区)が内閣府の委託で実施した。対台地区に住民登録があり、マイナンバーカードを交付済みの16歳以上の市民。対象者には市から事前の案内が送られ、一人一つの投票用番号が書かれたはがきが郵送された。投票者はスマートフォンを使い、その番号とメールアドレスで本人確認する。確認が終わるとつくば市の市政情報を提供するアプリ「つくスマ」が起動し、マイナンバーカードによる個人認証を経て、投票画面に進む。

郵送されたはがきには、市のイメージキャラクター「フククン船長」など四つのキャラクターの公約が紹介されており、市民はその中から好きな候補者を自由に選ぶ。期間中は何度でも投票先を選び直せた。

マイナンバーカード認証に対応したスマートフォンを持っていない人や投票方法が分からない人向けに、つくば市役所など市内3カ所にサポート窓口が開設された。期間中約140人が訪れ、学生アルバイトらが「マイナンバーカードのICチップをスマホで読み取れない」などの相談に対応した。

窓口を訪れた70代女性は「投票所に行かずに済むのがいいが、やってみると難しい」と話した。

VOTE FORの担当者は「参加者アンケートでは、約8割がネット投票導入に好意的だった。今回行ったことや文字を書くことが難しい人も投票しやすくなる。実証などの結果を基に実現に向けて進めていく」と話した。

高大連携シンポ2022

高校生が地域活性化策披露

筑波大の高大連携事業で、高校生が地域の課題を捉え、筑波大の教員や学術助言を受けながら解決策を提案するシンポジウム「2022」が11月19日に3A棟で開催された。14回目の開催で、今年も約180人が参加した。

(天野隼太、比較文化学類3年、写真も)

筑波大の高大連携事業で、高校生が地域の課題を捉え、筑波大の教員や学術助言を受けながら解決策を提案するシンポジウム「2022」が11月19日に3A棟で開催された。14回目の開催で、今年も約180人が参加した。

(天野隼太、比較文化学類3年、写真も)

VOTE FORの担当者は「参加者アンケートでは、約8割がネット投票導入に好意的だった。今回行ったことや文字を書くことが難しい人も投票しやすくなる。実証などの結果を基に実現に向けて進めていく」と話した。

ラッピングバス運行開始



ラッピングバス(11月19日、3A棟) = 潮来市(17)は、潮来市の人口や高齢化率を調べる

筑波大の創設50周年記念のラッピングバスが11月1日に始まった。筑波大とJR東海が共同運行する「ラッピングバス」が、東京駅を結ぶ高速バス「つくば号」(JRバス関東と関東鉄道共同運行路線)として、関東鉄道バスの運行時間帯に走行している。ラッピングバスの側面

ら巻くように波のような模様が描かれている。杉田穂波さん(芸専3年)が山本早里教授(芸術系)の指導を受けながらデザインを完成させた。杉田さんは「3カ月かかった。側面と後部がつながるデザインにして、全体的にすっきりとした印象になるよう意識した。自分のデザインを多くの人に認めてもらえるのがうれしい」と完成を喜んだ。筑波大が今年7月、関東鉄道(本社・土浦市)にラッピングバスの運行を依頼していた。筑波大は当初、筑波大循環バスにラッピングを施す予定だったが、より広く周知するため、高速バスに変更した。

広報局の担当者は「ラッピングバスの走行により、東京の人たちにも記念事業を知ってもらいたい」と話した。

(修其志、社会学類4年)

大学改革シンポ開催

脱炭素化に向けた役割議論

国立大学協会(国大協)・東京都千代田区)は11月2日、第21回大学改革シンポジウム「カーボンニュートラル」を開催した。気候変動対策が世界の焦点となる中、大学が脱炭素社会の実現に向けて果たす役割を考える狙いで、約700人が参加した。

東京大学未来ビジョン研究センターの高村ゆかり教授が基調講演し、温室効果ガス排出削減に向けた世界の情勢や国内での取り組みについて、大学生から教わった地域経済分析システム「REAS」(リーサス)「REAS」を活用した。課題設定の参考になったと話した。シンポジウムに出席した

今年度のシンポジウムでは、高校生らが考えた17の地域活性化策が披露された。

潮来市(17)は、潮来市の人口や高齢化率を調べる



潮来の「地上絵」を提案する潮来高校の高校生ら(11月19日、3A棟)

潮来市(17)は、潮来市の人口や高齢化率を調べる

潮来市(17)は、潮来市の人口や高齢化率を調べる

潮来市(17)は、潮来市の人口や高齢化率を調べる

潮来市(17)は、潮来市の人口や高齢化率を調べる

潮来市(17)は、潮来市の人口や高齢化率を調べる

潮来市(17)は、潮来市の人口や高齢化率を調べる

潮来市(17)は、潮来市の人口や高齢化率を調べる

知的障害者スポーツの祭典 「スペシャルオリンピックス」広島大会に密着



SONの平岡助教(11月4日、広島県立総合体育館大アリーナで撮影)

SOを知り転機に 平岡助教

平岡助教は2015年にSOの存在を知った。大会連続で五輪に出場したものの、いずれもメダルを逃し、「自分の努力を肯定

できなかった」と振り返る。そんな時、中学時代の恩師から「SOのことを知っているか。メダリストならそれくらい知っておけよ」と諭された。その時はあまり気に留めなかったが、数

日後にSONの有森理事長と会食する機会があった。その場で「サポートしてくれないか」と頼まれ、SONに携わるようになった。活動をしながら印象に残ったのは、アスリートたちが勝敗にこだわらず、相手を褒めたたえる姿だ。

「自分に誇りを持ってプレーすることの大切さ、勝ち負けだけではない柔道の人間教育的な側面に気付かされた」と語る。自身も結果にかかわらず、自分の努力の過程を受け入れられるようになったという。

平岡助教は「SOには、競い合いながらも互いをた

たえ合う価値観を世界に発信できる魅力がある。多くの人にこの活動を知ってもらえるよう、取り組みを続けたい」と話した。

記者が所属する心理学類では、知的障害者の支援法などが授業のテーマになることが珍しくない。だから、広島大会の取材では、競技の様子だけでなく、知的障害者をサポートする人たちも取材したいと考えていた。

「障害者」「健常者」の区別なく

記者が所属する心理学類では、知的障害者の支援法などが授業のテーマになることが珍しくない。だから、広島大会の取材では、競技の様子だけでなく、知的障害者をサポートする人たちも取材したいと考えていた。

「障害者」「健常者」の区別なく、誰もが暮らしやすい社会を作るためには、互いを尊敬ある個人として尊



競技役員(左)の支援を受けながら笑顔で走るアスリート(右)(11月6日、エディオンスタジアム広島) = 川上真生撮影

8種目を実施 陸上競技

陸上競技はエディオンスタジアム(広島市)で実施された。100メートル走幅跳など8種目が行われ、165人が出場した。SOでは、年齢や性別、競技能力などに応じたディビジョニングと呼ばれるクラス分けが採用されている。選手全員が決勝に進み、順位に関係なく表彰される。

予選は事前申告タイム、決勝は予選のタイムを基にクラス分けが行われた。11月6日の決勝は快晴で、白熱したレースが繰り広げられた。スタート前に名前をコールされた選手たちは観客席に手を振ったり、「頑張ります」と声を

クラス分けし全員表彰

予選は事前申告タイム、決勝は予選のタイムを基にクラス分けが行われた。11月6日の決勝は快晴で、白熱したレースが繰り広げられた。スタート前に名前をコールされた選手たちは観客席に手を振ったり、「頑張ります」と声を

上げた。会場は盛り上がりだった。400メートル走のM4ディビジョンで銀メダルを獲得した松田優介さん(19)は「予選は後半に疲れが出てしまった。決勝はペース配分を意識し、自己ベストを出せた」と喜んだ。

大会サポーターでプロ野球広島カープ元監督の緒方孝市さんに「知的障害者を持つ人」と接する上で気を付けていることを聞いた。す

瞬間のパンという音は、想像以上に大きく、迫力があつた。背負い投げがきれいに決まった瞬間は、技の美しさに見とれてしまった。

重しあうことが先決だ。今大会の取材を通じて、そのことを実感した。(高元愛香「心理学類2年」)

「社会と共に生きる力育む」

スポーツを通じて知的障害者(SON)の第8回日本夏季大会(広島大会)が11月4〜6日、広島県内4市町で開催された。全国47都道府県の代表約850人が陸上やサッカー、柔道など12競技に参加し、日ごろの練習の成果を披露した。筑波大の平岡助教(体育系)が運営に携わり、学

生4人がボランティア参加した同大会を密着取材した。(川上真生「社会学類1年」、高元愛香「心理学類2年」)

「社会と共に生きる力育む」で、来年のドイツ世界大会の代表選考を兼ねていた。11〜19歳まで幅広い年齢層が出場し、コーチ約500人やボランティア延べ約4000人が大会運営を支

えた。平岡助教はSONの理事で、各地のアスリートや指導者と交流し、活動の意義を社会に伝えるSONドリームサポーターも務めている。

女子マラソン五輪メダリストの有森裕子・SON理事長は「さまざまな能力を持つアスリートが、社会の人々と共に生きていける力を育むことができた」と大会を振り返った。

初めての実施 柔道競技

SONの主催大会で初めて実施されたのが柔道競技だ。広島市の県立総合体育館柔道場で行われ、6府県から14人が出場した。初日のディビジョニングでは、寝技や受け身など柔道の基本動作の確認に加え、簡単なゲームで選手の競技能力が審査された。

ゲームには、ボランティア参加した地元の大卒や高校の柔道部員20人も加わった。道法志歩さん(広島大4年)は「競技には勝ち負けの厳しさがあるが、ディビジョニングは誰もが楽しめる良い雰囲気だった」と語る。

高根代表の宝生愛歩選手は「楽しかった。ボランティアの人も偉いと思った」と話した。

SONの柔道は「楽しく安全に」と「互いを思いやる」の二つをテーマに掲げる。関係者によると、これには筑波大の前身の東京高等師範学校長を務めた柔道家・嘉納治五郎の「精力善用」「自他共栄」の理念が反映されている。

例えば、SOのルールでは、通常の柔道競技とは違い、相手の道着を持つ時に首の後ろをつかむことは禁止されている。手で首を圧迫したり、後頭部に刺激を与えたりすることを防ぐため、二つのテーマを生かしたルールとなる。アスリートの応援に駆けつけた保護者は「安全性を優先したルールがあるのを安心して子供に柔道をさせられる」と話した。

筑波大生もボランティア参加

大会には、平岡助教が担当する「スポーツボランティア講座」を受講する筑波大生4人がボランティアとして参加した。坂場菜子さん(看護4年)と木村有希さん(同4年)は柔道競技を担当した。開会式では選手団のフラカードを持ち、約1万人の観客を前に行進を先導した。坂場さんは行進前、心臓の鼓動を感じるほど緊張していた。そんな坂場さんに、コーチの1人が気遣って選手と会話する機会を作ってくれた。「選手から名刺を手渡され、仕事やスポーツに懸ける思いを聞くうちに緊張がほぐれた」という。木村さんはSOの全員表彰を見ることは選手の手がかりに「通じる」と評価した。稲垣敬大さん(体育2年)と松村穂咲さん(同1年)は陸上競技の会場の設置やメダル授与の補助などに携わった。稲垣さんは2018年の愛知大会でもボランティアを経験した。「スポーツを楽しむのに障害の有無は関係ない」と再認識した」と話した。

松村さんはアスリートから、手作りのバッジをもらった。「アスリートとのよい良いコミュニケーション方法を考えるきっかけになった」と振り返った。



競技を終えたアスリートを見送る松村さん(写真右)と稲垣さん(同右から2人目)(11月5日、エディオンスタジアム広島) = 川上真生撮影

結果だけでなく、取り組んだ過程にもあるのではないかと。他者への順位付けで自分を評価するのは、結果に至る過程を自分なりに見つめ直す大切さをSOの取材で教わった。

来年は長野県、再来年は北海道でSONの冬季大会が行われる。SOやスポーツの意義が広く浸透していく。(川上真生「社会学類1年」)

記者の声



及川千翔

茨城県議会選 地方選を政治考える機会に ネット投票で環境整備して

【2、11面に関連記事】茨城県議会選が12月11日に投票された。つくば市内に住む友人に投票するかどうか事前に聞く、「国政選挙に比べ、あまり関心を持ってない」そもそも住民票を移していないといった反応がほとんどだった。これはとてももったいないことで、1票を行使する権利を、もっと積極的に活用してほしいと思う。

茨城県議会選は、市選区候補者が掲げる公約を調べ、投票先を決める際の基準などについて話した。候補者の訴える政策は、つくば市内での県立高校増設やつくばエクスプレス(TX)の延伸など地元に関わる問題から、子育て支援、再生可能エネルギーの導入拡大など全国共通の課題に至るまで、幅広いものだった。投票の基準として、参加者からは「国政、地方を問わず女性議員が少ない。女性候補に投票したい」「政策が学生のためにあるかどうかを基準にしたい」など、さまざまな考え方が示された。

参加したある学生は「人によって注目する政策が異なり、候補者を選ぶ基準はそれぞれでよいのだと感じた」と話していた。同感だ。

私はつくば市内の実家から自ら茨城大には全国各地から学生が集まっている。つくばに住むのは在学中だけというケースも多いだろう。だが、つくばを仮住まいとせず、政治やその地の課題に関心を持ち、投票先を考えることには大きな意味がある。

一方で、有権者の政治参加を促すには、投票しやすい環境整備も大切だ。

つくば市は24年の市長選・市議会選の導入を目標に、インターネット投票の実証実験を進めている。実現すれば、投票所に向かう負担がなくなるなど、有権者の利便性が期待できる。もちろん、システムの信頼性向上や個人情報保護など、導入に向けた課題も多い。実証実験の結果を検証し、ネット投票の実現につなげてほしい。(筑波大学新聞副編集長・人文学類3年)

筑波時評

紛争が起ると、遺跡、歴史的建造物、博物館が意図的な破壊や攻撃のターゲットとされることがある。過激派組織「イスラム国」によるイラクやシリアの遺跡、博物館の破壊は記憶に新しい。このような行為は「イコノクラッシュ」と呼ばれ、文化的な「イメージ」を破壊する演出効果の高い攻撃の一つである。

紛争や政治的不安定が続く西アジアやアフリカに、遺物が作られた頃と現在は民族や宗教が異なるとしても、それらは自分たちの文化的アイデンティティを象徴するものである。紛争下の文化財は、アイデンティティを失われる危険にさらされている。

アフリカのアフガニスタン、パキスタン、インドネシア、中国など、紛争が起ると、遺跡、歴史的建造物、博物館が意図的な破壊や攻撃のターゲットとされることがある。過激派組織「イスラム国」によるイラクやシリアの遺跡、博物館の破壊は記憶に新しい。このような行為は「イコノクラッシュ」と呼ばれ、文化的な「イメージ」を破壊する演出効果の高い攻撃の一つである。

紛争や政治的不安定が続く西アジアやアフリカに、遺物が作られた頃と現在は民族や宗教が異なるとしても、それらは自分たちの文化的アイデンティティを象徴するものである。紛争下の文化財は、アイデンティティを失われる危険にさらされている。

谷口陽子



准教授(保存科学・考古学)

人文社会系(歴史人類学)・准教授。東京藝術大学美術研究所。博士(文学)。マルタ文化財修復センター、東京文化財研究所などを経て、2013年より現職。

消失されるアイデンティティ アフガニスタンを忘れない

アフガニスタンのパミヤン遺跡において、2005年から国連教育科学文化機関(ユネスコ)と日本政府による仏教壁画の保存修復に携わってきた。アフガニスタンからは、さまざまな民族対立もあり、ハザラ人指導者で1995年にタリバンに殺害されたマザリ師の彫刻の頭部が切断された。多くのアフガニスタン人研究者や専門家たちは身の危険から国を離れ、ド

アフガニスタンのパミヤン遺跡において、2005年から国連教育科学文化機関(ユネスコ)と日本政府による仏教壁画の保存修復に携わってきた。アフガニスタンからは、さまざまな民族対立もあり、ハザラ人指導者で1995年にタリバンに殺害されたマザリ師の彫刻の頭部が切断された。多くのアフガニスタン人研究者や専門家たちは身の危険から国を離れ、ド

アフガニスタンのパミヤン遺跡において、2005年から国連教育科学文化機関(ユネスコ)と日本政府による仏教壁画の保存修復に携わってきた。アフガニスタンからは、さまざまな民族対立もあり、ハザラ人指導者で1995年にタリバンに殺害されたマザリ師の彫刻の頭部が切断された。多くのアフガニスタン人研究者や専門家たちは身の危険から国を離れ、ド

反射鏡

マイナンバーカードはどう思う

今年度末に国民のほぼ全員に行き渡ることを目指すマイナンバーカード。マイポイント付与と普及を促してきたが、交付率は5割余り。デジタル社会の利便性向上につながる一方で、情報流出を心配する声も残る。そうした中、政府は現行の健康保険証を2年後に廃止し、マイナンバーカードと一体化する方針を決めた。事実上の取得義務化とも言える措置だ。筑波大生はマイナンバーカードをどう受け止めているのか。石の広場などで聞いた。

【地球3年・女性】 出身地の中国では、身分証明書としてのマイナンバーカードの所持が義務付けられている。そのカードから移動履歴を全て国が監視できる。マイナンバーカードの所持が義務付けられている。そのカードから移動履歴を全て国が監視できる。マイナンバーカードの所持が義務付けられている。そのカードから移動履歴を全て国が監視できる。

【地球3年・女性】 出身地の中国では、身分証明書としてのマイナンバーカードの所持が義務付けられている。そのカードから移動履歴を全て国が監視できる。マイナンバーカードの所持が義務付けられている。そのカードから移動履歴を全て国が監視できる。

クリスマスプレゼントの思い出

どんなプレゼントがもらえたら、何をあげようか。サンタの存在を信じていた時も、大人になってもクリスマスにワクワク感を抱く人は多いのではないかと。筑波大生はクリスマスプレゼントにどのような思い出があるのか。中央図書館前で聞いた。

【情報P前期2年・女性】 毎年母が茶色い手袋をくれる。好きな色が茶色だと覚えていて、母からの愛情と気遣いを感じる。友人が好きなゲームキャラの手も心も温まる。

【社4年・女性】 小さい頃、サンタが外から来たと思っていたので、クリスマス時期になると、外から読めるように窓に手紙を貼っていた。父が選んだのだと思う。もらった時は使いこなせなかったが、学年が上がって数学の勉強が専門的になるにつれて使える機能が増えている。2019年に

【地球3年・女性】 出身地の中国では、身分証明書としてのマイナンバーカードの所持が義務付けられている。そのカードから移動履歴を全て国が監視できる。マイナンバーカードの所持が義務付けられている。そのカードから移動履歴を全て国が監視できる。

【地球3年・女性】 出身地の中国では、身分証明書としてのマイナンバーカードの所持が義務付けられている。そのカードから移動履歴を全て国が監視できる。マイナンバーカードの所持が義務付けられている。そのカードから移動履歴を全て国が監視できる。



芸術祭 初の対面・オンライン同時開催 「DUO」テーマに



橋本さんの作品「かいじゅうレストラン」(11月6日、5C棟) = 及川千翔撮影

【一面参照】芸術専門学群の学生らが作品の展示や販売を行う「筑波大学芸術祭」が11月5、6日に開かれた。筑波大学芸術祭(豊隆祭)の主要企画の一つで、初の対面・オンライン同時開催となった。今年のテーマは「二人組」や「二重奏」を意味する「DUO」で、対面とオンラインそれぞれの強みを生かした企画が用意された。

(衣食住心理学類2年、及川千翔、6、7面に関連記事、12面に関連写真)

74点の連作並ぶ

芸術祭実行委員会が用意した対面企画は、作品展示「PAIR OF:展」▽Live Cafe▽ブリーマーケット▽芸術祭のテーマやロゴの制作意図などをパネル展示した「クリエイティブオフィス」の四つで、いずれも5C棟が会場となった。

5C507教室の「PAIR OF:展」では、芸術専門学群の学生20人が制作した油絵や洋裁など74作品が並んだ。今年のテーマ「DUO」にちなみ、同じモチーフを描いた作品や、同じ技法を使った作品など、こだわった展示をした。

橋本さんは「かいじゅうレストラン」を出展した。15枚四方の水彩画15枚からなる作品で、卵部分をテラノドンにしたオムライスなど、翼竜や恐竜と料理の組み合わせをアクリル絵の具で描いた。



「Live Cafe」に飾られたイラスト(11月5日、5C棟) = 衣笠有紀撮影

「Live Cafe」は「作品も料理も提供し、来場者から味付けを全8通り選ぶ「DUO」の組み合わせから選べる「DUO」のコンセプトを考えた印刷品(同3年)は「作品の陰に隠れがちな学生作家を知ってもらう機会を作りたい」と、展示を見て作家のファンになったという人もいてうれしく語った。

作品と食事楽しむ

5C514教室が会場となった「Live Cafe」のコンセプトは「アーティストと出会うカフェ」。芸術専門学群の学生10人が制作したイラストや陶器、洋裁など約60作品が来場者を囲むように展示され、接客・調理も出品者が行った。

オンラインも充実

オンラインの特設サイトでは、芸術専門学群の学生がシフト制で担当した。食事は、具材や味付けを全8通りの組み合わせから選べる「DUO」の組み合わせから選べる「DUO」のコンセプトを考えた印刷品(同3年)は「作品の陰に隠れがちな学生作家を知ってもらう機会を作りたい」と、展示を見て作家のファンになったという人もいてうれしく語った。

MC展 大学院生の力作展示 「観覧者の反応 制作の刺激に」



ギャラリートークで絵の解説をする柘植さん(11月15日、茨城県つくば美術館で)

「第38回MC展」が11月15、20日、茨城県つくば美術館(つくば市吾妻)で開かれた。芸術学位プログラム博士前期課程の学生26人が洋画25点、版画2点、日本画15点の計42点を出展し、延べ715人が会場を訪れた。

柘植省吾さん(芸術P前)は、表現者のがき方が同じだと感じる。きれいに乗せた絵の具をあえてはがす手法で、感情の起伏を表現した」と話した。

期間中は鑑賞者と出展者が意見交換をするギャラリートークが日本画と洋画を対象にそれぞれ1回開かれ、制作の背景や感想などを語り合った。

出展した学生の代表を務めた田村真優帆さん(同1年)は「展示会を通して鑑賞者からコメントをもらうことが、何よりも制作の刺激になる。より多くの人に

37作品が古民家に

図画団展 初の学外開催



古民家で照らされる作品(11月12日、さくら民家園で)

「図画団展2022」が11月12、13日にさくら民家園(つくば市吾妻)で開かれた。筑波大の美術サークル「図画団」のメンバー19人が水彩画やデジタルイラストなど37作品を出品し、約200人が来場した。

同民家園はつくば市中央公園の一角にあり、18世紀末の古民家が移築されている。図画団が学外で展示会を開くのは初めてだが、来場者した男性(数学3年)は「学内で開催された昨年の図画団展にも行ったが、雰囲気全く違う。薄暗い中、暖かい色合いの照明に照らされることで、作品が浮かび上がっているように

感じる」と好意的だった。また、毎年恒例の落書きスペースが設置され、横約2m、縦約1mの模造紙に親子連れなどがイラストを描く姿も見られた。

高田あゆみさん(人文3年)は5作品を出展した。そのうち「習作:自己紹介」は、約2枚四方のケント紙に色鉛筆でデッサン風に描かれた作品だ。木に止まりこころを見つめる一羽のフクロウを、鮮やかな色彩で紙いっぱいに描いた。

高田さんは「フクロウは格好良さや可愛いらしさなどさまざまな魅力があり、モチーフにすることが多い。最近では主に水彩画に取り組んでいるが、高校までは色鉛筆での制作が多かった。原色に立ち返るという意味を込め、このタイトルをつけた」と話した。

展示作品は図画団展2022の公式インスタグラム(https://instagram.com/nugadan_online_web_2022)からも閲覧できる。(小栗あおいII社会学類3年、写真も)

◆おわりに
芸術の森は休みます。



喜劇王チャールズ・チャップリンによる1936年の古典的名作である。つらい環境の中でもささやかな幸福を求める人々の姿を描いた、切なくも温かいサイレント(無声)映画だ。コメディであるが、同時に痛烈な社会風刺の映画でもある。その笑いと、機械化に対する問題提起は、映画製作から80年以上たった今日でも、全く色あせていない。

特に冒頭の20分の工場シーンは秀逸である。チャップリン演じる工場モデルと言われる米自動車メーカー・フォード社が13年に初めて開発したのがベルトコンベヤー方式だ。すなわち、今日までつながる機械による大量生産システムである。徹底的な単純労働、時間管理される工場作業、それを繰り返すことで生じる精神的ダメージ。これらは現在でも、アルバイト先のパレール倉庫や食品工場などの経験として、学生からしばしば聞かれる話だ。この作品が驚鐘を鳴らすとした、機械化により人間の尊厳が奪われる状況は、今も見えない現場で続いているのである。

個人的な話になるが、大学3年生の時、当時の東京大経済学部では頻繁に学生向け無料工場見学ツアーが開催されていた。その時に鉄鋼の連続鋳造工場や自動車組立工場などを初めて目の前で

者のがシフト制で担当した。食事は、具材や味付けを全8通りの組み合わせから選べる「DUO」の組み合わせから選べる「DUO」のコンセプトを考えた印刷品(同3年)は「作品の陰に隠れがちな学生作家を知ってもらう機会を作りたい」と、展示を見て作家のファンになったという人もいてうれしく語った。



12月6日、つくば市天王台で

12月に入り、一気に気温が低くなってきた。つくばは雪が降らないが、「筑波おろし」とも呼ばれる強い風が特徴だ。「てぶくろ」だけでなく、「マフラー」「着ぶくれ」「セーター」なども冬の季語。(島崎寛永II 人文学類3年、写真も)

俳句 筑波大

「てぶくろ」
・冬椿咲いて世界に寝ころがる
・てぶくろの中を知らないままでめて
・息を吐くたびにひかりのなかの冬



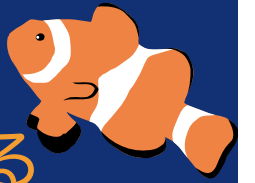
田中洋子 教授(社会経済史・労働政策)
人文社会系・教授。東京大学大学院経済学研究科博士課程修了。博士(経済学)。ベルリン・フンボルト国際労働中研究所フェローなどを経て2008年より現職。

「モダン・タイムズ」
監督・脚本・主演・作曲・製作
チャールズ・チャップリン
場労働者は、ベルトコンベヤーに流れてくるナットを締める作業をひたすら繰り返す。工場主が命じるスピードアップで作業は更に切迫し、監視されて休みも取れない。動いたまま食事ができるよう、機械が勝手に食事を口に運んでくれる全自動食事機の実験台にもなる。大きな機械の中に飲み込まれ、歯車に挟まれて回転するシーンは特に有名である。そして同じ作業を繰り返して心身の調子を狂わせていく。この作品の普遍性には根拠がある。この映画のモデルと言われる米自動車メーカー・フォード社が13年に初めて開発したのがベルトコンベヤー方式だ。すなわち、今日までつながる機械による大量生産システムである。徹底的な単純労働、時間管理される工場作業、それを繰り返すことで生じる精神的ダメージ。これらは現在でも、アルバイト先のパレール倉庫や食品工場などの経験として、学生からしばしば聞かれる話だ。この作品が驚鐘を鳴らすとした、機械化により人間の尊厳が奪われる状況は、今も見えない現場で続いているのである。



テーマは「Invigorate The Festival!」

初めて尽くしの雙峰祭 舞台裏に迫る



カクレクマノミの展示を見る来場者(11月5日、1E棟で) = 修其志撮影

海洋研究会

海洋研究会はスキndaイピングと海洋生物を紹介する「海の生き物展」海洋研の水族館」を1E棟で開

入った「押し魚」を決め、入場時に渡されたシールをボードに貼って投票した。細長くて縞模様があるアミウツボが363票を集めて、1番人気になった。

教室が水族館に

会場にはシュノーケルなどの装備が展示された。また、ミニカサゴやカクレクマノミ、オトヒメエビなど11種類の海洋生物を入れた6基の水槽が用意された。これらは、会員が千葉県館山市沖でダイビング中に採集するなどしたものだ。

筑波マッスルファイブ 筋力トレーニングを愛する有志学生5人で結成した「筑波マッスルファイブ」は、「マッスル」ならぬ「ワッフル」を販売。延べ約1000人が訪れた。



「フィータータイム」で曲に合わせて筋トレをする筑波マッスルファイブのメンバー(11月5日、2B棟で) = 天野隼太撮影

ワッフルでマッスル

食後に筋トレを行い、食べ帰ってもらうことを企画のた分のカロリーを消費して、コンセプトに掲げ、雙峰祭と話した。

100企画が 祭りの彩る 双峰祭では毎年、ステージでのパフォーマンスや教室展示、飲食物や物品の販売など約300の企画が行われ、数万人が訪れていた。3年ぶりの対面開催となった今回は、感染対策を企画マンサ。今年は石の広場を約100に絞り、入場者数も上限付きの予約制としたため、例年よりもごちんまりとした形での実施となった。それでも、参加した

入学後初のパフォーマンス

「いつか実をつける」などの言葉にツバキの花のイラストが添えられた。書く文字やその配置、描くイラストが添えられた。書く文字やその配置、描くイラストが添えられた。書く文字やその配置、描くイラストが添えられた。



立てたパネルに文字を書き上げる書道部の部員(11月5日、石の広場で) = 加藤緑撮影

トなどは部員同士が話し合って決めたという。コロナ禍でパフォーマンスの機会が失われ、今回参加した部員全員が入学後初の経験だった。先輩からノウハウを引き継ぐことができず、演技の内容は「一から考えた。道具もほぼ全て自分たちで購入した。」

2年間の集大成 観客とショー作る

オリジナルヒーロー「研究学園戦士ツクバダイナ」(11月5日、1A棟で) = 天野隼太撮影



オリジナルヒーロー「研究学園戦士ツクバダイナ」(11月5日、1A棟で) = 天野隼太撮影

を引立てる効果音が観客をひきつけた。感染防止のため、ツクバダイナがピンチを迎えた際は、観客が声援でなく拍手で応援し、会場を盛り立てた。

後夜祭

双峰祭を締めくくると後夜祭も3年ぶりに対面開催された。お笑いライブと雙峰祭表彰された。ステージ企画A COLLECTION部門ではアイドルコンビ「ツクコレ」、花火の打ち上げが行われた。



TSUKUBA COLLECTION ミスター部門でグランプリに輝いた井上周さん(中央)(11月6日、石の広場で) = 中谷美稀撮影

TSUKUBA COLLECTION ミスター部門でグランプリに輝いた井上周さん(中央)(11月6日、石の広場で) = 中谷美稀撮影

「た」と話した。過去2年間は、コロナ禍でイベントが軒並み中止となり、練習の成果を発揮する機会に恵まられなかった。会員間でモチベーションが低く、引退した4年生や大学院生がサポートに入っている状況だ。



開催を支えた 学実委

豊峰祭の開催を支えたのが、学園祭実行委員会(学実委)のメンバーたちだ。委員長の青木颯汰さん(工シス2年)に、開催までの苦労や今後の課題などを聞いた。(聞き手・及川翔輝)



学園祭実行委員長 青木颯汰さん(11月6日撮影) 後夜祭であいさつをする青木委員長(11月6日、石の広場)

う人が多かった。学実委内での引き継ぎや豊峰祭の伝統を残すため、今年こそは対面でもやりたかった。コロナ下の対面開催で必須なのは感染対策だ。しかし、開催時の感染状況をなかなか見通せず、開催形態や入場者数の上限をどの時点でどう決めるのか、難しい判断を迫られた。

初めて導入したチケットは、友人や家族の分なども考慮し、1人3枚まで予約できるようにしたが、使われなかったチケットも多かったのではないかと。見直しが必要だと感じました。

対面開催に向け、大学と学実委と調整を行ったのが学生生活課だ。同課の担当者は「学実委も学生生活課もコロナ下の対面開催は初めての経験。来年も開催できるように成功させたい」と思い、一つ一つ手順を踏んで慎重に調整を行った。

調整企画では、保健所の指導に従い、衛生上の理由から、決められた教室でのみ仕込み作業を認めた。ところが、自宅でやっていたケースがあった。また、電気の使用過ぎでブレーカーを落としたケースもあった。これらはルール違反で、企画に対し警告を行った上で、改善が見られなかった3企画を中止。調理企画は例年、屋外でガスを使って行ってきた

が、今年は屋内での電力機器使用に限った。万が一、感染が起きた時に、その周辺に誰がいたかを特定しやすいと考えたからだ。それが、電気の過剰使用につながった可能性は否定できない。調整企画は例年、屋外でガスを使って行ってきた

が、今年は屋内での電力機器使用に限った。万が一、感染が起きた時に、その周辺に誰がいたかを特定しやすいと考えたからだ。それが、電気の過剰使用につながった可能性は否定できない。調整企画は例年、屋外でガスを使って行ってきた

が、今年は屋内での電力機器使用に限った。万が一、感染が起きた時に、その周辺に誰がいたかを特定しやすいと考えたからだ。それが、電気の過剰使用につながった可能性は否定できない。調整企画は例年、屋外でガスを使って行ってきた

が、今年は屋内での電力機器使用に限った。万が一、感染が起きた時に、その周辺に誰がいたかを特定しやすいと考えたからだ。それが、電気の過剰使用につながった可能性は否定できない。調整企画は例年、屋外でガスを使って行ってきた

が、今年は屋内での電力機器使用に限った。万が一、感染が起きた時に、その周辺に誰がいたかを特定しやすいと考えたからだ。それが、電気の過剰使用につながった可能性は否定できない。調整企画は例年、屋外でガスを使って行ってきた

チケットは、友人や家族の分なども考慮し、1人3枚まで予約できるようにしたが、使われなかったチケットも多かったのではないかと。見直しが必要だと感じました。

対面開催に向け、大学と学実委と調整を行ったのが学生生活課だ。同課の担当者は「学実委も学生生活課もコロナ下の対面開催は初めての経験。来年も開催できるように成功させたい」と思い、一つ一つ手順を踏んで慎重に調整を行った。

調整企画では、保健所の指導に従い、衛生上の理由から、決められた教室でのみ仕込み作業を認めた。ところが、自宅でやっていたケースがあった。また、電気の使用過ぎでブレーカーを落としたケースもあった。これらはルール違反で、企画に対し警告を行った上で、改善が見られなかった3企画を中止。調理企画は例年、屋外でガスを使って行ってきた

が、今年は屋内での電力機器使用に限った。万が一、感染が起きた時に、その周辺に誰がいたかを特定しやすいと考えたからだ。それが、電気の過剰使用につながった可能性は否定できない。調整企画は例年、屋外でガスを使って行ってきた

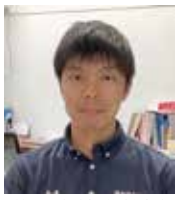
が、今年は屋内での電力機器使用に限った。万が一、感染が起きた時に、その周辺に誰がいたかを特定しやすいと考えたからだ。それが、電気の過剰使用につながった可能性は否定できない。調整企画は例年、屋外でガスを使って行ってきた

が、今年は屋内での電力機器使用に限った。万が一、感染が起きた時に、その周辺に誰がいたかを特定しやすいと考えたからだ。それが、電気の過剰使用につながった可能性は否定できない。調整企画は例年、屋外でガスを使って行ってきた

が、今年は屋内での電力機器使用に限った。万が一、感染が起きた時に、その周辺に誰がいたかを特定しやすいと考えたからだ。それが、電気の過剰使用につながった可能性は否定できない。調整企画は例年、屋外でガスを使って行ってきた

が、今年は屋内での電力機器使用に限った。万が一、感染が起きた時に、その周辺に誰がいたかを特定しやすいと考えたからだ。それが、電気の過剰使用につながった可能性は否定できない。調整企画は例年、屋外でガスを使って行ってきた

Hello! 先端研究



秋原大祐准教授

焼き色を含め、見た目は成形したひき肉のようだった。一口かむと、やはり肉のような味が口いっぱいに広がった。

秋原大祐准教授(生環系)らが「麩菌」を培養し、牛肉などの代替肉として開発した「麩肉」を食べさせてもらった。「肉」そのものだった。

秋原准教授は「麩肉の開発は、地球環境問題の解決に貢献し、新たな食品産業の創出にもつながると話している。麩菌は日本で1000



学園祭実行委員長 青木颯汰さん(11月6日撮影) 後夜祭であいさつをする青木委員長(11月6日、石の広場)

チケットは、友人や家族の分なども考慮し、1人3枚まで予約できるようにしたが、使われなかったチケットも多かったのではないかと。見直しが必要だと感じました。

対面開催に向け、大学と学実委と調整を行ったのが学生生活課だ。同課の担当者は「学実委も学生生活課もコロナ下の対面開催は初めての経験。来年も開催できるように成功させたい」と思い、一つ一つ手順を踏んで慎重に調整を行った。

調整企画では、保健所の指導に従い、衛生上の理由から、決められた教室でのみ仕込み作業を認めた。ところが、自宅でやっていたケースがあった。また、電気の使用過ぎでブレーカーを落としたケースもあった。これらはルール違反で、企画に対し警告を行った上で、改善が見られなかった3企画を中止。調理企画は例年、屋外でガスを使って行ってきた

が、今年は屋内での電力機器使用に限った。万が一、感染が起きた時に、その周辺に誰がいたかを特定しやすいと考えたからだ。それが、電気の過剰使用につながった可能性は否定できない。調整企画は例年、屋外でガスを使って行ってきた

が、今年は屋内での電力機器使用に限った。万が一、感染が起きた時に、その周辺に誰がいたかを特定しやすいと考えたからだ。それが、電気の過剰使用につながった可能性は否定できない。調整企画は例年、屋外でガスを使って行ってきた

が、今年は屋内での電力機器使用に限った。万が一、感染が起きた時に、その周辺に誰がいたかを特定しやすいと考えたからだ。それが、電気の過剰使用につながった可能性は否定できない。調整企画は例年、屋外でガスを使って行ってきた

が、今年は屋内での電力機器使用に限った。万が一、感染が起きた時に、その周辺に誰がいたかを特定しやすいと考えたからだ。それが、電気の過剰使用につながった可能性は否定できない。調整企画は例年、屋外でガスを使って行ってきた

が、今年は屋内での電力機器使用に限った。万が一、感染が起きた時に、その周辺に誰がいたかを特定しやすいと考えたからだ。それが、電気の過剰使用につながった可能性は否定できない。調整企画は例年、屋外でガスを使って行ってきた

麩菌使い代替肉を開発 環境問題の解決に貢献

の細胞を伸ばして成長させる。麩菌は砂糖のような炭素源とたんぱく質の成分となる窒素源などを溶かした溶液で育てる。

溶液の入ったフラスコに100万分の1%にも満たない胞子約20万個を

よる食肉供給に黄色信号がともっているからだ。畜産による食肉の大規模生産には、大量の水や飼料、広大な土地が必要だ。世界人口が増え続ける中、環境負荷が大きい

これまでの供給体制を維持できるか、懸念されて

一方、麩菌なら、培養に広大な土地や水は必要なく、生育速度も速い。また、うま味成分のグルタミン酸は麩菌100%

相当たり、たんぱく質含有量は100%相当たり55%と、大豆や牛肉を大



調理して盛り付けた麩肉=秋原准教授提供

きく上回る。麩肉プロジェクトのきっかけは、科学技術振興機構(JST)の「ミリア・プログラム」事業に参加するため、筑波大の若手研究者らが結成した「チーム・ポスト・アントロポセン(人新世)」のメンバーになったことだ。同事業の狙いは2050年の社会像と科学技術の果たすべき役割を考えることで、議論の過程で「麩菌」の活用

が浮かんできた。今後の実用化に向けては、特許の取得や効率的な大量生産方法の確立などが課題となる。

秋原准教授は「新たな食品としての可能性を追求しつつ、おいしさや加工方法の幅広さを食品会社に発信している最中だ。企業と共同研究しながらビジネス化していきたい」と展望を語った。(小栗あおい)社会学類3年)

大分県で生まれ、「こんな田舎、早く出たい」という思いだけで2009年に入学した。引越すと地元より田舎で、宿舍も平砂10号棟(通称スラム)だった。その面喰らいました。が、つくばはエキスポレス一本で東京に行けるのが何よりうれしかった。大学時代は順風満帆ではありませんでした。生来のサボリ癖に精神的な



福島民報社記者 吉田雄貴さん

手紙

不調も重なり、学類生として8年間フル在籍しました。修士課程への進学など理由があるならまだしも、何の目的もなくここまで居座った学生はあまりいないのではないのでしょうか。なんと8年かけて卒業し、一旦パイ

ト先のワイン屋さん就職。半年後に福島県の地元紙福島民報社に転職しました。福島との縁ができたのは東日本大震災後、大学の恩師が引きこもりがちの私を連れ出し、NPOの復興事業に参加させてくれたからです。それ以降、主に「浜通り地方」と呼ばれる沿岸部に足を運ぶようになりました。

福島では震災と原発事故で日本が抱える潜在的な課題が、一気に顕在化しました。少子高齢化やコミュニティ崩壊、医療資源不足、産業衰退など枚挙にいとまがありません。国が「復興」に巨額の投資をする理由もここにあります。福島を再生できれば、他地域にも福島事例を活用できるからです。課題先進地で取材するのは刺激が多く、充実している、と書いていいかもしれません。

そもそも私は大学を出るまで記者になろうとは考えていませんでした。かなりの人見知りですが、書くのも大嫌いで、小学生の頃は読書感想文が

友から聞いて、入場にチケットが必要だと初めて知った。書きずには作文用紙一枚をまるごと本の引用で埋め、先生に怒られたら卒業するのに手一杯、就活もほぼほぼできませんでした。ただ、大学に長く居る間にある考え方に気がつき、「自分は記者に向いているかも」と感じたのが記者になろうとしたきっかけです。それは「自分が苦手と思っていたことが、周囲から評価される場合がある」ということです。つまり、僕の場合は人に会って話を聞いたり、文章を書いたりすると、評価してくれる人がそこそこいたのです。逆に言えば「自分が

人生を生き抜くヒント見つけて

比較化学類卒、写真は本人提供



感染対策を徹底して行われた飲食企画(11月5日、1B棟) =寺尾優汰撮影

【熊本県から来た女性】高校1年生の娘と一緒に来た。飲食企画では、感染対策がきちんとしていると感じた。娘の高校受験の時は、進学を希望するなどの高校も、コロナ禍でイベントが軒並みなくなった。娘が志望する大学の学園祭は行ける時に行ってみたくて考え、来場した。

【国際4年・女性】後夜祭で打ち上げられた「ゆめ花火」はコロナ禍前からの企画。定番のドラえもん音楽を聞き、「ああ、これだ」と懐かしい気持ちになった。チケット制については、完売するのが早すぎて、在学生が参加できない事態に陥りそうだった。今後とも入場制限が続くのなら、改善してほしい。

関東大学リーグ 3位

2-1でいばらきダービーに勝利

筑波大は11月12日、関東大学リーグの最終節に流通経済大と同大龍ヶ崎フィールド(茨城県龍ヶ崎市)で対戦し、2-1で勝利した。1部リーグの筑波大は通算11勝4分7敗で2位となり、昨年の6位から順位を上げた。大会の新人賞に諏訪園幸成(体専1年)が選出された。

(細井真生)

サッカー

関東大学リーグの上位5校と総理大臣杯で優勝した国士舘大が全日本大学選手権(インカレ)の出場権を得た。筑波大は11月5日の順天堂大戦で0-4と敗れたものの、同日の他大学の結果を受けてインカレ出場が決まっていた。

12日に対戦した流通経済大は県内のライバルで、筑波大はいばらきダービーでの勝利を狙った。

試合は開始5分までに4回連続でコーナーキックを与えたが、ディフェンス陣の体を張った守備で乗り切った。その後は筑波大が

ボールを持つ時間が長く、ゴールを持つ時間が長く、22分、MF竹内素人(同2年)の右サイドからのスルーパスに中央のMF瀬良俊太(同3年)がスライディングで合わせてゴールを決めた。前半はそのまゝ1-0で試合を折り返した。

後半開始3分、相手にミドルシュートを打たれるも、GK高山岬生(同3年)が体を投げ出して止めた。しかし、同14分に今度は右サイドからのクロスを押しまれ失点を許した。

筑波大は細かくパスをつなぎ、攻撃の機会をさうかがう。同25分、右サイドからFW和田育(同4年)がシュートを打とうとした。これは相手にスライディング

4年ぶり関東大会出場

創価大に2-4で破れる

【横浜スタジアム(横浜市中区)で天野隼太比較文化学類3年、写真も】第18回関東地区大学野球選手権(関東大会)が11月7-10日に行われた。関東地区の5大学連盟から選出された代表10校で争われ、上位2校は明治神宮大会の出場権を得る。4年ぶりの6回目を果たした筑波大は1回戦で創価大と対戦。序盤からリードを許す展開で、9回裏の反撃も及ばず、2-4で敗れた。

【横浜スタジアム(横浜市中区)で天野隼太比較文化学類3年、写真も】第18回関東地区大学野球選手権(関東大会)が11月7-10日に行われた。関東地区の5大学連盟から選出された代表10校で争われ、上位2校は明治神宮大会の出場権を得る。4年ぶりの6回目を果たした筑波大は1回戦で創価大と対戦。序盤からリードを許す展開で、9回裏の反撃も及ばず、2-4で敗れた。



先発した西館(11月7日、創価大戦で)

【横浜スタジアム(横浜市中区)で天野隼太比較文化学類3年、写真も】第18回関東地区大学野球選手権(関東大会)が11月7-10日に行われた。関東地区の5大学連盟から選出された代表10校で争われ、上位2校は明治神宮大会の出場権を得る。4年ぶりの6回目を果たした筑波大は1回戦で創価大と対戦。序盤からリードを許す展開で、9回裏の反撃も及ばず、2-4で敗れた。

全日本学生優勝大会制す

中央大の4連覇を阻止

学生の団体日本一を決める全日本学生優勝大会が10月30日、エディオアンアリーナ大阪(大阪市浪速区)で行われ、筑波大が5年ぶり13回目の優勝を果した。

(福澤航介II生物資源学類3年)



優勝を果たした選手ら=剣道部提供

剣道

試合は1チーム7人対戦。筑波大は1回戦、2回戦を敗美な試合運びで勝利を重ねた。3回戦、大阪体育大と対戦し、代表戦となるも大平翔士(体専4年)が相手のコテをかわしてメスを決め、勝利した。その勢いそのまま、準々決勝で鹿屋体育大に勝利した。

準決勝では、前大会まで3連覇中の中央大と対戦。先鋒の原田光(同3年)が試合開始約1分、相手を守りに入るところに鋭くコテを決め、そのまま一本勝ちを収めた。次鋒戦から大

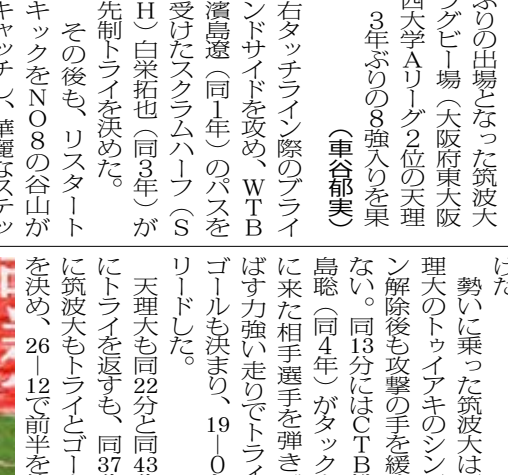
全日本選手権

池田3位入賞

個人の剣道日本一を決める全日本選手権が11月3日、日本武道館(東京都千代田区)で行われ、池田虎

【横浜スタジアム(横浜市中区)で天野隼太比較文化学類3年、写真も】第18回関東地区大学野球選手権(関東大会)が11月7-10日に行われた。関東地区の5大学連盟から選出された代表10校で争われ、上位2校は明治神宮大会の出場権を得る。4年ぶりの6回目を果たした筑波大は1回戦で創価大と対戦。序盤からリードを許す展開で、9回裏の反撃も及ばず、2-4で敗れた。

【横浜スタジアム(横浜市中区)で天野隼太比較文化学類3年、写真も】第18回関東地区大学野球選手権(関東大会)が11月7-10日に行われた。関東地区の5大学連盟から選出された代表10校で争われ、上位2校は明治神宮大会の出場権を得る。4年ぶりの6回目を果たした筑波大は1回戦で創価大と対戦。序盤からリードを許す展開で、9回裏の反撃も及ばず、2-4で敗れた。



【横浜スタジアム(横浜市中区)で天野隼太比較文化学類3年、写真も】第18回関東地区大学野球選手権(関東大会)が11月7-10日に行われた。関東地区の5大学連盟から選出された代表10校で争われ、上位2校は明治神宮大会の出場権を得る。4年ぶりの6回目を果たした筑波大は1回戦で創価大と対戦。序盤からリードを許す展開で、9回裏の反撃も及ばず、2-4で敗れた。

【横浜スタジアム(横浜市中区)で天野隼太比較文化学類3年、写真も】第18回関東地区大学野球選手権(関東大会)が11月7-10日に行われた。関東地区の5大学連盟から選出された代表10校で争われ、上位2校は明治神宮大会の出場権を得る。4年ぶりの6回目を果たした筑波大は1回戦で創価大と対戦。序盤からリードを許す展開で、9回裏の反撃も及ばず、2-4で敗れた。

ラグビー

試合は序盤から筑波大ペースで進んだ。開始直後、相手のハイパントをチンパー8(N08)谷山隼大(体専3年)がキャッチ。この時、谷山に絡んだ天理大のウイング(WTB)アントニオ・トゥイアキが危険なプレーでシンビン(10分間の一時退場)となり、数的優位に立った。

前半6分、スクラムから

【横浜スタジアム(横浜市中区)で天野隼太比較文化学類3年、写真も】第18回関東地区大学野球選手権(関東大会)が11月7-10日に行われた。関東地区の5大学連盟から選出された代表10校で争われ、上位2校は明治神宮大会の出場権を得る。4年ぶりの6回目を果たした筑波大は1回戦で創価大と対戦。序盤からリードを許す展開で、9回裏の反撃も及ばず、2-4で敗れた。



【横浜スタジアム(横浜市中区)で天野隼太比較文化学類3年、写真も】第18回関東地区大学野球選手権(関東大会)が11月7-10日に行われた。関東地区の5大学連盟から選出された代表10校で争われ、上位2校は明治神宮大会の出場権を得る。4年ぶりの6回目を果たした筑波大は1回戦で創価大と対戦。序盤からリードを許す展開で、9回裏の反撃も及ばず、2-4で敗れた。

【横浜スタジアム(横浜市中区)で天野隼太比較文化学類3年、写真も】第18回関東地区大学野球選手権(関東大会)が11月7-10日に行われた。関東地区の5大学連盟から選出された代表10校で争われ、上位2校は明治神宮大会の出場権を得る。4年ぶりの6回目を果たした筑波大は1回戦で創価大と対戦。序盤からリードを許す展開で、9回裏の反撃も及ばず、2-4で敗れた。

全日本インカレ10年ぶり優勝 主将の垂水は4部門で個人賞受賞



10年ぶりの優勝で歓喜に沸く選手ら＝男子バレーボール部提供

大学日本一を決める全日本大学選手権(全日本インカレ)が11月29日、12月4日に大田区総合体育館(東京都大田区)などで行われ、筑波大は10年ぶりの優勝を果たした。主将の垂水優芽(体専4年)が大会の最優秀選手賞やベストスコアラ賞など4部門で個人賞を受賞した。またブロック賞にエバデン・ラリー(同4年)、リベロ賞に木村祐真(同2年)、優勝監督賞に秋山史監督(体育系准教授)が選出された。

バレー

筑波大は3回戦まで北翔大、大同大、京都産業大にそれぞれストレート勝ち。準々決勝も駒澤大に3-1で勝利した。

3日の準決勝では、6連覇を狙う早稲田大と対戦。第1セットを25-19で先取したが、続く第2、3セットをいずれも21-25で奪われた。後がなくなった第4セットでは、今大会が最後のインカレとなる4年生が活躍し、25-22で追いついた。最終第5セットは12-14で相手先がマッチポイントを迎えたが、相手のミスとエバデンのブロックでジュースに持ち込んだ。垂水のバックアタックが決まり17-16でリードすると、最後は相手のスパイクがアウトになり、決勝に駒を進めた。

4日の決勝では、6月の東日本大学選手権で敗れた東海大と対戦。第1セットを先取され、第2セットも序盤から主導権を握られる展開となった。しかし、途中出場した砂川裕次郎(体専3年)のバックアタックやエバデンのサーブミスで逆襲を誘った。24-25と相手にセットポイントを握られた場面は垂水のスパイクでしのぐが、相手も譲らず28-28に。最後は垂水がサーブミスとバックアタックを決め、31-29で第2セットをつかみ取った。第3セット、勢いに乗った筑波大は1年時からコートに立ってきた西川馨太郎(同4年)のサーブミスやブロックが決まり25-15で連取した。

迎えた第4セットは、序盤に緊迫した一進一退の攻防が繰り返された。ここでもチームを救ったのは、4年生だった。西川のサーブから東海大の勢いを封じ込めると、エバデンが速攻を決めてマッチポイントを握った。最後は垂水がレフトからクロス叩き込み、25-19で勝利した。

身長210センチ、最高到達点は350センチ。いずれも国内最高峰だ。スパイクやブロックに加え、積極的にレシーブする姿勢は、日本の将来を背負うにふさわしい。

バレー

小学生の時はサッカーをしていたが、6年生で身長が180センチを超え、「背の高さを生かすスポーツがしたい」と中学でバレーボールを始めた。

しかし、地元の高松市立香東中に男子バレー部はなく、女子バレー部に1人だけ交じって基礎練習に取り組んだ。試合には出られなかったが、実戦形式の練習では後衛に入り、レシーブの位置取りやバックアタックの練習に励んだ。

転機は3年生の4月に訪れた。女子バレー部の監督が同市立桜町中に転勤し、男子バレー部監督に就任。その後を追って同中に転校し、男子バレー部に所属した。

8月の全日本中学校選手権(全中)まで時間が足りない中、仲間と積極的に

ジャパンオープン 三浦・飯塚が銅 三浦は100メートル背泳ぎでも入賞

【東京辰巳国際水泳場(東京都江東区)で及川千翔II人文学類3年、写真も】競泳日本一を決めるジャパンオープン2022が12月1〜4日に開かれた。筑波大勢では、三浦玲央(体専3年)が男子50メートル背泳ぎで3位、男子100メートル背泳ぎで8位と2種目で入賞。女子100メートルバタフライでは、2年前に同種目を制した飯塚千通(同4年)が3位に入った。

水泳競技

2日の100メートル背泳ぎ予選、三浦は55秒28で4位通過。同日の決勝は55秒49とタイムを落とし8位だった。翌日の50メートル背泳ぎ決勝では、自己ベストを更新する25秒64で3位入賞を果たした。

今年8月の日本学生選手権(インカレ)の100メートル背泳ぎで55秒03を記録し、3位に輝くなど好調の身についていると感じたと話す。今回はシニア大会で自身初の表彰台、「とてもうれしいが、100メートルは前半

で攻めた分、後半に失速してしまった。国際大会の代わりを重ね、自分に合ったペース配分を見つけない」と話した。

4日の100メートルバタフライ決勝で、飯塚は58秒53で3位だった。前半の7位から追いついた。

「順位にこだわりすぎず、でも表彰台は確実に狙っていた」と飯塚は言う。大学卒業後も競技を続ける飯塚の次なる目標は来春の日本選手権。来年7月に福岡で開催される世界選手権の代表選考の場となる。

飯塚は「最近の記録は58秒台半ばで安定しているが、派遣標準記録(57秒79)を切って、代表に入りたい。冬の間に体力をつけたい。冬に泳げるようになりたい」と話した。



後半追い上げ、100メートルバタフライ決勝で3位に入った飯塚(12月4日、東京辰巳国際水泳場で)

「インカレの銅メダルは自信になった。着実に力がついてきていると感じたと話す。今回はシニア大会で自身初の表彰台、「とてもうれしいが、100メートルは前半

で攻めた分、後半に失速してしまった。国際大会の代わりを重ね、自分に合ったペース配分を見つけない」と話した。

しかし、地元の高松市立香東中に男子バレー部はなく、女子バレー部に1人だけ交じって基礎練習に取り組んだ。試合には出られなかったが、実戦形式の練習では後衛に入り、レシーブの位置取りやバックアタックの練習に励んだ。

転機は3年生の4月に訪れた。女子バレー部の監督が同市立桜町中に転勤し、男子バレー部監督に就任。その後を追って同中に転校し、男子バレー部に所属した。

8月の全日本中学校選手権(全中)まで時間が足りない中、仲間と積極的に

客との距離が近く、応援が力になった」と話した。垂水は「練習してきたことが守備面に出せた。インカレ直前に有観客試合の雰囲気を経験できたことも良かった。後輩のために来年も開催してほしい」と話した。

大学進学を目指したのには、技術力と筋力を強化すると共に、引退後も見据えてバレーの勉強をしたいと考えたから。高校2年生の時、筑波大の監督が高校を訪れ、筑波大に入った場合の将来設計を提案してくれた。レベルの高い環境で課題克服に取り組みると確信し、進学を決めた。

大学入学後は、試合や練習ごとに分析されたデータを基に、ブロックとレシーブの関係を考え、プレーするようになった。筑波大の特徴である速いトス回しにも適応できるようにになった。

入学と同時にバレーボール・Vリーグ男子の強豪、パナソニックと契約した。オアシスには、オールラウンダーのミハウ・クヒアク選手(ポーランド)などと一緒にプレーし、パスやアタックの技術を学んでいる。

筑波大では攻撃を専門とするオポジットのポジションに入るが、「いずれは攻守の要となるアウトサイドヒッターとして活躍したい」と話す。世界の壁を打ち破る姿を早く見たい。(藤岡遥菜II工学システム学類1年写真も男子バレーボール部提供)

世界へ羽ばたく日本の最高峰



注目の大型アタッカー 牧 大晃 (体専1年)

クカップの香川県代表に選ばれた。チームは2回戦で敗れたが、個人として最優秀選手賞を受賞した。翌年1月には全日本

だ。初の全国大会は2年生で臨んだ全日本高校選手権(春高バレー)。サーブレシーブにも参加し、自分でパスを出しながら

だ。初めの全国大会は2年生で臨んだ全日本高校選手権(春高バレー)。サーブレシーブにも参加し、自分でパスを出しながら

だ。初めの全国大会は2年生で臨んだ全日本高校選手権(春高バレー)。サーブレシーブにも参加し、自分でパスを出しながら

だ。初めの全国大会は2年生で臨んだ全日本高校選手権(春高バレー)。サーブレシーブにも参加し、自分でパスを出しながら

だ。初めの全国大会は2年生で臨んだ全日本高校選手権(春高バレー)。サーブレシーブにも参加し、自分でパスを出しながら

だ。初めの全国大会は2年生で臨んだ全日本高校選手権(春高バレー)。サーブレシーブにも参加し、自分でパスを出しながら

だ。初めの全国大会は2年生で臨んだ全日本高校選手権(春高バレー)。サーブレシーブにも参加し、自分でパスを出しながら

開学50周年記念ポスター 受賞作公開

広報やPRに活用



創基51年開学50周年「ガン」DESIGN THE FUTURE TOGETHER. —ともに拓く未来— 記念のロゴマークとスローガン「E FUTURE, TOGETHER.」を、下側に同色で筑波山をモチーフにした二つの三角を描いている。

西村さんは「誰が見ても『筑波』だと認識できる、シンプルで分かりやすいデザインを目指した。筑波大は発展を続ける一方、筑波山は変わらないところにある。これまで歩んできた軌跡とその価値を見つめ直すという意味を込めた」と話した。

受賞作品は創基51年開学50周年記念事業委員会が審査で決まった。優秀賞は田村貞夫さん(東京都)、野口真喜さん(京都府)、佐藤久代さん(茨城県)の3作品が選ばれた。

筑波大は12月5日、公募していた創基51年開学50周年記念事業のポスターデザインの受賞作品を発表した。学内外から計14点の応募があり、茨城県在住の西村法之さんの作品が最優秀賞に選ばれた。優秀賞3点も決まった。受賞作は記念事業の周知などに使われる。

創基51年開学50周年「ガン」DESIGN THE FUTURE TOGETHER. —ともに拓く未来—、校章を入れることがポスターの要件。

西村さんの作品は校章とロゴマークを上部に置き、中央に「筑波」を、下部に「E FUTURE, TOGETHER.」とスローガンを配置した。

「食と酒東北祭り」開催

3年ぶりにつくばセンターで



東北の地酒を振る舞う実行委員ら (11月26日、つくばセンター広場で) = 嵩元愛香撮影

東北の食と地酒の販売を行う第9回「食と酒東北祭り」(同実行委員会主催)が11月26、27日につくばセンター広場(つくば市吾妻)で開かれた。東北6県の酒造業者や当地グルメなど計16店舗が出店され、延べ約8000人が来場した。

(嵩元愛香)心理学類2年、衣笠若紀、12面に関連写真

同祭りは東日本大震災で被災した東北の魅力を知らせてもらうのが狙い。つくばを「東北とつながるきっかけとなる場所」にしたいとの思いで、筑波大生を中心とした実行委が2014年から主催してきた。

今回のテーマは「おかえり東北、ただいま食酒」。20年はコロナ禍で東北から店舗を招かず、市内の居酒屋2店舗で小規模開催した。21年は中止となった。つくばセンターでの開催は3年ぶり。東北から招いた店舗を温かく迎えたいという思いを込めた。

出店した酒造業者は9業者。来場者が4種類の日本酒を選び、500円で試飲できる飲み比べセットが人気を集め、約1000セットを売り上げた。

実行委の初代代表の立川哲之さん(29)(平成27年度生物資源学類卒)は今年7月、福島県南相馬市を拠点とする「いんげん醸造」を創業。今回の祭りに初出

展された。

立川さんは「出店してくれた店舗の中には震災による酒蔵の全壊という窮地を乗り越えて復興した業者もある。うまい酒を多くの人に楽しんでもらえたらうれしい」と話した。

東北グルメでは秋田のきりたんぼ鍋や宮城の牛タン入りつくねなどが並んだ。来場者の渡邊奈々さん(心理2年)は、秋田名物のいぶりがっこにチーズを合わせた串刺しを楽しみ、「辛口の日本酒と組み合わせるとおいしさがより引き立った」と語った。

会場ではステージ企画もあり、若手県石巻市出身の男女アコースティックデュオ「*はななおと*」や筑波大のアイドルコンビダンスグループ「Bombs!」などがパフォーマンスを披露した。また、筑波大の学生団体「Tsukuba for 3・11」メンバーが今年7月に被災地を訪ねた際に撮影した写真なども展示された。

世界の教室から

モントリオール大 (カナダ)

田嶋悠楽々

今年9月からカナダ・ケベック州のモントリオール大に留学中です。世界最大規模の仏語系大学で、基本的に授業は全て仏語で開講されます。その条件を満たすため、大学が公式に提供する仏語コースを受講中で、来学期からの専門分野の授業履修に備えています。多くのコースの中で



「私は私、あなたはあなた」

移民大国カナダで唯一の人口統計学を持つモントリオール大での学びは、今後の自分の研究に役立つ。

私もカナダを留学先に選んだのは、移民の存在を前提として成り立つ多文化共生社会に関心があつたからです。

以前から、外国人労働者の受け入れの是非や日本の移民政策に興味がありました。

日本の移民政策の問題点はデータを用いた実証研究が少ないことです。そのため、統計的手法を身に付け、有効な実証研究を行えるようになりました。

不可欠であると思い、留学を決定しました。

大学での学び以外にも日々、さまざまな気づきや示唆を得ています。

後半は4、5人の4グループに分かれ、映像ディレクターの川サキケンジさんが制作した約8分の短編アニメ「チルリ」を分析した。「チルリ」は水を求めて町を訪れた少年と、町で道行く人々にりんごを配る少女の出会いを描いている。町では井戸が枯れ、蛇口から黒い水が出る。人々みな影のように黒く、うつむき気味に歩く。誰も少女のりんごを受け取らない。りんごがいつの間にか腐っていったことに少女が気づいて号泣しているところへ、少年が現れて……というストーリーだ。

各グループの発表では、「りんごは愛。腐敗は少女の悲しみを示している」「黒い水は社会の汚染で、町の人々はそれに染まってしまっただ」などの意見が出た。

参加した奥山凜さん(比文2年)は「旧約聖書のア

「アニメブンセキ」セミナー 心理学使い作品読み解く

心理学を使ってアニメを分析するセミナー「アニメブンセキ」が11月29日にオンライン開催された。学生相談室主催の「キャンパスライフセミナー」の一環。同室カウンセラーの田中崇恵助教(人間系)が、フロイトの精神分析やユング心理学を基に、宮崎駿監督の「千と千尋の神隠し」など17のアニメ作品を読み解いた。

スイスの精神科医で心理学者だったユングは、無意識には「個人的無意識」と人類に共通する「集合的無意識」があり、後者は昔話や神話などを通じて現れるとした。

「千と千尋」では、主人公の千尋がトンネルを抜けた先に異世界があった。田中助教によれば、これは集合的無意識の一例で、アニメに登場するトンネルには「異界への通路」や「境界」などの特徴的なイメージがあるという。

3年連続最高評価

筑波大の性的少数者支援

性的少数者に関する優れた取り組みをした企業や団体を評価する「PRIDE指標2022」の結果が11月10日に発表され、筑波大が最高評価のゴールドを受賞した。3年連続5回目。PRIDE指標は性的少数者が働きやすい職場環境作りを評価するもので、任意団体「work with pride」が2016年に策定した。行動宣言▽当事者コミュニティ▽普及啓発▽人事制度▽プログラム▽社会貢献・渉外活動の5項目で審査される。筑波大は全項目を満たし、5点満点だった。ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター(DACCセンター)の河野慎之助教(人間系)は「性的少数者への理解を深める研修会や相談窓口の設置、展示会の企画など、継続的な取り組みが評価された」と語った。

今年度は402件の応募があり、318の企業や団体がそれぞれの特徴を生かしながら取り組んでおり、バラエティーに富んだアプローチが示され始めている」と話した。(天野隼太)

学内飲食店 経営状況依然厳しく 利用者数は今春より増加も

対面授業再開による利用者・売上の変化

店名	利用者数 ①今年10月	売上 ②今年10月	値上げ (11月以降)
2B棟食堂	117	70	なし
1A棟喫茶 「スーファクトリー」	128	47	実施予定
2B棟喫茶 「カフェ マルババン」	125	75	実施済
2B棟食堂麺処	157	無回答	検討中
本部棟レストラン	115	60	検討中
春日食堂	140	55	実施予定
大学館レストランプラザ 「筑波デミ」	200	80	実施予定
3A棟フードコート 中華・うどん・そば店	224	33	なし
1A棟食堂	130	90	なし
医学食堂	112	120	なし
スターバックス	117	118	なし

① 2022年4月を100とした
② 2019年10月を100とした (本紙アンケートを基に作成)

対面授業で回復の兆し
アンケートは今年11月22日から12月2日に実施。経営状況や今後の値上げ予定などについて聞いた。今年4月と10月を比べ、

1日平均の利用者数の増加率が最も高かったのは3A棟フードコート中華店で、124%だった。大学会館のレストラン「筑波デミ」も100%増加した。しかし、コロナ禍前の2019年10月の売上を100%とした場合、両店の今年10月の売上はそれぞれ33%と80%にとどまった。

光熱費や原材料費
他の飲食店もコロナ禍前の売上に届いていないとこ

1日平均の利用者数の増加率が最も高かったのは3A棟フードコート中華店で、124%だった。大学会館のレストラン「筑波デミ」も100%増加した。しかし、コロナ禍前の2019年10月の売上を100%とした場合、両店の今年10月の売上はそれぞれ33%と80%にとどまった。

光熱費や原材料費
他の飲食店もコロナ禍前の売上に届いていないとこ

1日平均の利用者数の増加率が最も高かったのは3A棟フードコート中華店で、124%だった。大学会館のレストラン「筑波デミ」も100%増加した。しかし、コロナ禍前の2019年10月の売上を100%とした場合、両店の今年10月の売上はそれぞれ33%と80%にとどまった。

T-ACT 筑波大生が模擬選挙実施

茨城県議選題材に

【4面に記者の声】茨城県議選(12月11日投票)の模擬選挙プロジェクトが12月5日、2A棟で実施された。筑波大の学生応援プログラム「T-ACT」の一環で、佐久田幸志さん(教育3年)が企画した。学生13人が参加し、つくば市選挙区の候補者が掲げる政策の違いを議論した後に模擬投票した。

(川上真生 社会学類1年、写真も)

プロジェクトでは、最初アンケートで調べた。その結果を参加者で共有し、増やすべきだ。「交通政策や県議選の特徴について説明。その後、参加者それぞれが、つくば市選挙区の候補者が掲げる政策などを交換した。

参加者からは「茨城県は意見が出された。



活動を通して、「政治や選挙のことよく分からなくて」という学生の声を多く聞いたことが、今回の企画のきっかけになったという。

佐久田さんは「県議選は国政選挙よりも関心が低く身近な暮らしに直結している。学生が身の回りの課題に目を向けるきっかけになればうれしい」と話した。

けやきっず

病院内の実習などで闘病中の子供たちやその家族を見る中

ゆめ花火 3年ぶりの打ち上げ

だが、コロナ禍で2021年は実施できず、3年ぶりの開催だった。副代表の浅原由貴さん

トが「ゆめ花火」だ。2011年から、雙峰祭の後夜祭に合わせ、筑波大学附属病院に入院して

だが、コロナ禍で2021年は実施できず、3年ぶりの開催だった。副代表の浅原由貴さん

トが「ゆめ花火」だ。2011年から、雙峰祭の後夜祭に合わせ、筑波大学附属病院に入院して

たのぼろ tanbo

筑波大学園祭(雙峰祭)の最終日。人気アニメ「ドラえもん」のテーマソング「夢をかきだして」に合わせて、筑波キャンパスの夜空を鮮やかな花火が彩った。最初に打ち上げられたのはカエル。カレライスや梅干しなどユニークなデザインが続く。最後は、色とりどりの光が混じった、お花畑をイメージした花火で締めくくられた。9種類計27発の花火による15分間の光のページェントだった。

「ゆめ花火」と名付けられたこの企画を実施したのは、医療系の学生約40人で作るサークル「つくばけやきっず」だ。

病院での実習などで闘病中の子供たちやその家族を見る中

高田裕二社長によると、

「何ができることはなにかと考えた学生たちが結成した。

そのメインイベント

「ゆめ花火」は「子供たちは痛くて怖い検査や治療を頑張っている。自分たちの花火を見て、少しでも前向きになってほしい」と話す。

19年までは病院内で説明会を開き、その場で子供たちに花火のデザインを描いてもらっていたが、今年は院内にボスターを掲示し公式LINEで募集した。7件の応募があり、保護者からは「活動を応援している」というメッセージも届いた。

原画は、花火関係者とのつながりを持つ筑波大の花火研究会を通じて山崎煙火製造所(つくば市泊崎)に託され、オリジナル花火の製作と打ち上げが行われた。

打ち上げ費用は、茨城県社会福祉協議会からの助成金とクラウドファンディングで賄った。クラウドファンディングでは目標の20万円を上回る26万円余りを獲得した。代表の柴山恵理佳さん(医学5年)は「多くの人に支えられていると感じた」と話す。

コロナ禍のため、子供たちと一緒に院内で撮影した。子供たちが入院中の様子も録画し、絵を描いてくれた子供たちと入院中の子供たちにDVDの形で配布することにした。

カレライスの花火を描いた子供は打ち上げを直接見ることができ、家族から「私が描いた花火だよ」とうれしそうに何度も確認していたという知らせがあった。

子供たちとけやきっずの思いを乗せたゆめ花火は、これから人々の心を明るく照らしていく。(高元愛香 心理学類2年)

して楽観視できない状況だ。光熱費や原材料費の上昇が続いているからだ。施設マネジメント課は10月24日、飲食店に支払いを求めた光熱費の単価を値上げした。ガス料金も電気料も約2倍になった。

飲食店が使用した電気代は筑波大が立て替え払いをし、その後、あらかじめ定めた単価に基づいて飲食店から徴収している。単価の引き上げは、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻や円安の影響を受け、大学が支払う光熱費が大幅に上昇したことが理由だ。

アンケートでは「単価引き上げの事前連絡がなかった」と、困惑する声を寄せた飲食店もあった。

原材料費の上昇も続く。

民間の信用調査会社・帝国データバンクによると、今年10月の食品・飲料の値上げは6700品目にあふ。

ハラルフードに対応している「カフェ マルババン」は11月から全商品を50円値上げた。



鶏肉やタマネギ、業務用油などの仕入れ値が約2倍に高騰し、牛肉は1kg当たり税別960円(18年11月)が同1500円(今年11月)と急騰している。

高田裕二社長は「利用者のことを考え、できるだけ値上げを抑制したい」と話した。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、大学の方針として、学生生活課はキャンパス内の飲食店に対し、テーブルなどのこまめな消毒や座席の間隔確保などの感染対策を要請してきた。大人数が集まる飲食店ではマスクを外すので、不安を感じる利用者もいるだろう。しばらくの間はルールを守って食事をしてほしい」と語る。

これにたい2B棟食堂では、座席数を半分減らし、向かい合う座席をなくした。現在もこの対応を続けているが、昼休みの混雑時には席が足りず座れない利用者が出てきている。椅子を移動させ無理やり向かい合って食事をする集団の利用者もいるという。

同食堂の従業員は「食事(医学5年)は「子供たちは痛くて怖い検査や治療を頑張っている。自分たちの花火を見て、少しでも前向きになってほしい」と話す。

19年までは病院内で説明会を開き、その場で子供たちに花火のデザインを描いてもらっていたが、今年は院内にボスターを掲示し公式LINEで募集した。7件の応募があり、保護者からは「活動を応援している」というメッセージも届いた。

原画は、花火関係者とのつながりを持つ筑波大の花火研究会を通じて山崎煙火製造所(つくば市泊崎)に託され、オリジナル花火の製作と打ち上げが行われた。

打ち上げ費用は、茨城県社会福祉協議会からの助成金とクラウドファンディングで賄った。クラウドファンディングでは目標の20万円を上回る26万円余りを獲得した。代表の柴山恵理佳さん(医学5年)は「多くの人に支えられていると感じた」と話す。

コロナ禍のため、子供たちと一緒に院内で撮影した。子供たちが入院中の様子も録画し、絵を描いてくれた子供たちと入院中の子供たちにDVDの形で配布することにした。

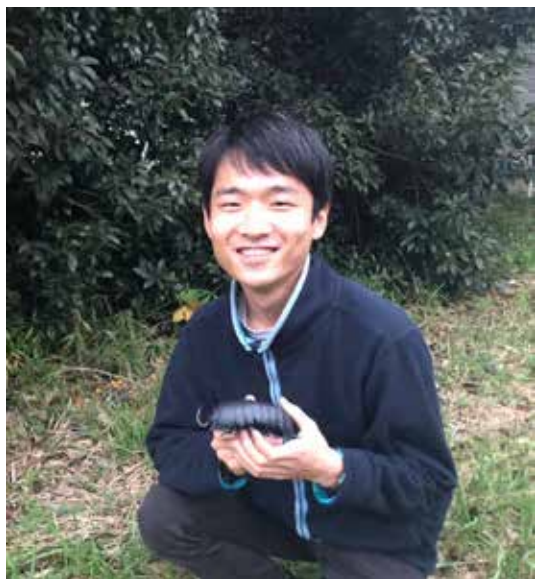
カレライスの花火を描いた子供は打ち上げを直接見ることができ、家族から「私が描いた花火だよ」とうれしそうに何度も確認していたという知らせがあった。

子供たちとけやきっずの思いを乗せたゆめ花火は、これから人々の心を明るく照らしていく。(高元愛香 心理学類2年)

Who's Who?

ダンゴムシのフンに抗カビ効果発見

片岡 柁人^{まさひと} さん (生物2年)



ダンゴムシの模型を手にして笑顔を見せる片岡さん=本人提供

高校生の時、カビの繁殖を抑える細菌がダンゴムシのフンに... 自由研究の全国コンテストである「高校生・高専生科学技術チャレンジ(JSEC)」で、最優秀賞の文部科学大臣賞に輝いた。

「誰も知らない、どこにも書いてないことを見つけていく楽しさが研究の原動力」と語る。ダンゴムシ研究を始めたのは...

この研究で日本学生科学賞の文部科学大臣賞を受賞し、米国で開かれた「国際学生科学技術フェア」(ISEF)を見学する機会を得た。世界中の高校生が研究発表する姿や会場の熱気に感動し、「次は自分が出場したい」という目標ができた。

小1から続けるダンゴムシ研究 「誰も知らない」が原動力

科学部に入った。高校1年生の時は、校内の生物室を主な研究場所に、ダンゴムシのフンに含まれる細菌の培養を行った。その中から、抗カビ効果が高い細菌を発見。2年生になると、島根大の研究室に通って研究を深めた。

現在は「研究マインド応援プログラム」とAREEを利用して、豊福雅典准教授(生薬学)の研究室で、ダンゴムシのフンに含まれている細菌が生産する抗カビ物質の特定に取り組んでいる。また、抗カビ物質を生産する細菌とダンゴムシの共生関係の有無も、今後の研究課題だ。

「研究マインド応援プログラム」とAREEを利用して、豊福雅典准教授(生薬学)の研究室で、ダンゴムシのフンに含まれている細菌が生産する抗カビ物質の特定に取り組んでいる。また、抗カビ物質を生産する細菌とダンゴムシの共生関係の有無も、今後の研究課題だ。

「行け!」とあ、借しい。思わずテレビの前で声を上げていました。サッカーワールドカップ(W杯)カタール大会のクロアチア戦です。筑波大学蹴球部OBから三笠選手、谷口彰悟選手が出場し、応援にも一層熱が入りました。筑波大の現役選手たちの活躍も目覚ましいものでした。男子バレーボール部が10年ぶりにインカレで優勝(9面)、男子剣道部が学生優勝大会で5年ぶりに優勝しました(8面)。今号で取材した選手たちが世界で活躍する日も遠くないかもしれません。(編集長・車谷郁実)社会学類3年

次号は 2月13日(月) 発行予定です

印刷リフォーム

編集後記... せん▼さまごまな壁に立ち向かい、挑戦を続けるのはスポーツ選手だけではなく、3年ぶりの対面開催に向けて準備を続けてきた雙峰祭実行委員(1、5、6、7面)、自分の絵を通して戦争のない社会の実現を訴えたウクライナからの避難学生(2面)、被災した東北の魅力伝えた食と酒東北祭りの実行委員(10面)など、さまざまなかたちで、それぞれの壁と立ち向かう筑波大生がいます▼そんな学生の姿に読者の皆さんもきっと「フッポ」と言いたくなるはず。今年最後の筑波大学新聞をどうぞお楽しみください。(編集長・車谷郁実)社会学類3年

国際交流フェス



ブラジルの文化を紹介する学生ら (12月1日、大学会館で) =佟其志撮影

学内総合

2面へ

芸術祭 対面・オンラインで



フリーマーケットでは芸術専門学群の学生の作品が販売された (11月6日、5C棟で) =及川千翔撮影

学芸

5面へ

「TSUKUBA LIVE!」



試合後の筑波大と東京学芸大の選手ら (11月23日、球技体育館で) =細井真生撮影

スポーツ

9面へ

食と酒東北祭り



祭りでは東北のご当地グルメが味わえた (11月27日、つくばセンター広場で) =衣笠有紀撮影

学生生活

10面へ

編集・発行

筑波大学新聞編集委員会

委員長 逸村裕(図書)

副委員長 清水諭(体育系)

委員 長 清水諭(体育系)

委員 長 清水諭(体育系)

委員 長 清水諭(体育系)

委員 長 清水諭(体育系)

委員 長 清水諭(体育系)

委員 長 清水諭(体育系)

委員 長 清水諭(体育系)

委員 長 清水諭(体育系)

委員 長 清水諭(体育系)

委員 長 清水諭(体育系)

委員 長 清水諭(体育系)

委員 長 清水諭(体育系)

委員 長 清水諭(体育系)

委員 長 清水諭(体育系)

委員 長 清水諭(体育系)

委員 長 清水諭(体育系)

委員 長 清水諭(体育系)

委員 長 清水諭(体育系)

委員 長 清水諭(体育系)

委員 長 清水諭(体育系)

委員 長 清水諭(体育系)